

学校図書館支援センター 概要

学校図書館は、「学校図書館法」で「学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もつて学校教育を充実することを目的とする。」(第1条)、「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備をいう。」(第2条)とされています。学校で出された課題に対して、初めに受け皿となるのは学校図書館です。児童・生徒が資料を使って十分に調べられるよう学校図書館の資料の充実を図る必要があります。

とはいえ児童・生徒の興味関心は多岐に渡ります。子どもたちから寄せられる様々な要望に学校図書館の資料だけでは応えられない場合もあるでしょう。そうしたときに学校図書館を支援するため、学校図書館支援センターは設けられました。

図書館は、複数館がネットワーク（図書館相互の協力組織）を組むことによりサービスの充実を図ることができます。ネットワークの充実によって、資料提供源が拡大するとともに情報を交換しあうようになり、図書館の機能を高めることができます。

さいたま市では、さいたま市学校図書館資源共有推進体制を構築し、子どもたちがより充実した図書館サービスを受けられるよう努めてきました。市立図書館はそのネットワークの一環として市立小・中学校の学校図書館への支援を行っており、学校図書館支援センターがその窓口となっています。

学校図書館支援センター（さいたま市立北浦和図書館）

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-4-2

電話 048-832-2321 FAX 048-832-2324

令和6年3月更新

学校図書館支援の歩み

旧浦和市の図書館で行われていた学校対象のサービスは学校図書館支援センターの設立につながり、合併したさいたま市にもその理念は引き継がれています。以下、学校図書館と市立図書館の連携の歩みをまとめました。

■ 第1期 揺籃期

○ 昭和 62（1987）年度

- ・ 6月、南浦和図書館が「学校訪問」をはじめ。図書館員が浦和市内の3つの小学校に赴き、おはなし・本の紹介・本の貸出等を行った。以後、北浦和図書館（昭和63）、中央分館（平成3）でも開始。

○ 平成 3（1991）年度

- ・ 平成4年2月、北浦和図書館で、教育研究会図書部会と共催で「学校図書館との合同研修会」を開催する。内容は「情報化社会における図書館運営について」。

○ 平成 5（1993）年度

- ・ 6月、文部省「学校図書館図書整備新5か年計画」策定。
- ・ 7月、学校教育部に「学校図書館運営検討委員会」が発足。北浦和図書館の児童係長が参加し、学校図書館との連携を強化する体制に。
 - 授業への協力を行い、団体貸出を行う（計2,000冊）。
 - 学校図書館への貸出しを行う（4校435冊）。

→授業関連・学校図書館への団体貸出開始

- ・ 11月、浦和市内の公立高等学校の学校図書館司書を招いて第1回「高校図書館との連絡会」を開催。高等学校図書館との連携を協議する。

○ 平成 6（1994）年度

- ・ 6～7月、浦和市立の小・中学校図書館を見学し、アンケートと面談を実施する。調査報告書を作成。

■ 第2期 学校図書館支援の気運の高まり

○ 平成 7（1995）年度

- ・ 浦和市内6校に学校図書館司書が配置される（小学校4名、中学校2名。以後配置校を拡充）。

○ 平成 8（1996）年度

- ・ 7月31日～8月2日、全国学校図書館協議会全国大会が浦和市で開催される。南浦和図書館職員が事例発表を行う。

○ 平成 9（1997）年度

- ・ 11月、第1回「図書館を使った“調べる”学習賞コンクール」で浦和市立図書館の「浦和市立図書館と学校図書館の連携について」が公共図書館の部優秀賞を受賞。

- 平成 10（1998）年度
 - ・ 5 月、配送業者委託による団体貸出配送が開始される。
 - ・ 7 月、浦和市が学校図書館情報化・活性化推進モデル地域に指定される（～平成 12 年度）。
→学校図書館のネットワーク化へ
 - ・ 12 月、北浦和図書館 1 階に学校図書館支援センターがオープンする。

■ 第 3 期 学校図書館ネットワークの構築に向けて

- 平成 11（1999）年度
 - ・ 浦和市立小・中・高校全校に学校図書館司書が配置される。
 - ・ 4 月、学校図書館情報化・活性化推進モデル実践協力校の学校図書館で、コンピュータによる貸出が始まる。
 - ・ 5 月、指導 1 課による「市内施設間物流」（「ネットワーク便」とも）の運行がはじまる。業者が学校－市内施設（図書館・教育研究所）間を毎週 1 回巡回し、資料の搬送を定期的に行う体制になる。
 - ・ 6 月、教育研究所のデータサーバの運用がはじまり、実践協力校間の蔵書の検索が可能になる。
- 平成 12（2000）年度
 - ・ 12 月、指導 1 課による「学校間物流」の運行がはじまり、実践協力校間の資料の貸借が可能になる。
- 平成 13（2001）年度
 - ・ 5 月 1 日、浦和市、大宮市、与野市が合併し、さいたま市が誕生。
 - ・ 6 月、さいたま市が学校図書館資源共有型モデル地域に指定される（～15 年度）。
- 平成 14（2002）年度
 - ・ 4 月、大宮エリア、与野エリアの 18 校に学校図書館司書が配置される。
 - ・ 5 月、「学校間物流」が学校図書館資源共有型モデル地域参加校に拡充され、本格的に始まる（図書館からの団体貸出が一時減少）。
 - ・ 7 月、「5 つのふれあい運動県民大会&教育を考える集い」で北浦和図書館の「学校図書館支援センターの設立とその活動」が表彰される。
- 平成 15（2003）年度
 - ・ 大宮図書館・大宮西部図書館と、大宮エリアの学校図書館資源共有型モデル地域事業参加校に「市内施設間物流」が運行するようになる。
- 平成 16（2004）年度
 - ・ 「市内施設間物流」と「学校間物流」が統合され「ネットワーク便」の名称となり、資料の物流が一本化される。
 - ・ 9 月、さいたま市が学校図書館資源共有ネットワーク推進地域に指定される（～平成 18 年度）。
- 平成 17（2005）年度
 - ・ 4 月 1 日、岩槻市がさいたま市と合併し、さいたま市岩槻区となる。

- ・ ネットワーク便が岩槻区以外のすべての市立小・中学校に巡回するようになる。

■ 第4期 学校図書館ネットワークの完成

○ 平成 19（2007）年度

- ・ 学校図書館司書がさいたま市立の学校全校に配置される。
- ・ 学校図書館用コンピュータも全校設置され、ネットワークでつながるようになる。
- ・ ネットワーク便が岩槻区も含めすべてのさいたま市立小・中学校に巡回するようになる。
- ・ 市内各図書館で行っていた担当校への団体貸出とレファレンス業務を学校図書館支援センターに集約する（それまで学校図書館支援センターでは、市立全校を対象とする集会行事用の資料や修学旅行等に関する図書の団体貸出のみ行っていた）。
- ・ 11月、中央図書館開館。図書館組織が再編成される（中央図書館、拠点図書館、地区図書館・分館の3構成になる）。

○ 平成 20（2008）年度

- ・ 4月、指導1課によりさいたま市学校図書館教育推進協議会が設置される（～平成31年度）。

○ 平成 22（2010）年度

- ・ 4月、図書館職員や教員等が編集した「子ども100選」のパンフレットが小・中学校で配布される。

○ 平成 26（2014）年度

- ・ さいたま市立の特別支援学校にネットワーク便が巡回するようになる。

○ 平成 29（2017）年度

- ・ さいたま市立の高等学校にネットワーク便が巡回するようになる。

○ 平成 30（2018）年度

- ・ さいたま市立の教育相談室（6か所）にネットワーク便が巡回するようになる。

○ 令和元（2019）年度

- ・ 令和2年3月、新型コロナウイルス蔓延防止のため学校が一斉休校する。（～5月）

○ 令和2（2020）年度

- ・ 8月、学校図書館支援センター運営要領、同貸出業務等実施要領施行。

○ 令和4（2022）年度

- ・ 3学期から、大宮西部図書館が所管する学級文庫貸出の搬送を、学校図書館支援センターを介してネットワーク便で行うようになる（当初は中学校のみ。翌年度2学期から小・中学校全学年に対象拡大）。

主な業務内容

令和6年3月現在

学校図書館支援センターでは、さいたま市立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校及び関係する施設に対して、以下のようなサービスを行っています。

- 学校図書館向け資料の収集及び団体貸出
- レファレンス、所蔵調査
- ICTを活用した情報提供
- 学校対象図書頒布会（除籍・寄贈資料を提供）
- 図書館業務に関する質問・相談
- 学校訪問・学校招待の実施（各担当市立図書館が対応）
（ブックトーク、オリエンテーション、オリエンテーリング、参考図書の使い方、おはなし会など）
- 学校図書館司書研修協力

団体貸出の推移

- ・学校図書館支援センターによる資源共有ネットワーク対象施設への貸出点数を計上。
 ※学校図書館資源共有ネットワーク対象施設(令和6年3月現在。すべてさいたま市立の施設)
 小学校:104校 中学校:58校 高等学校:3校 中等教育学校:1校 特別支援学校:2校
 教育相談室:6か所
- ・拠点館による担当校への貸出は含まない。
- ・ネットワーク外の施設への貸出は含まない。

年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
貸出点数	32,076	33,255	36,679	32,794	27,208	39,661	46,043	45,265	45,496	54,434	60,245	62,139	
受付件数	1,221	1,305	1,403	1,125	877	1,416	1,622	1,628	1,780	1,703	1,914	1,978	
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
貸出点数	76,187	60,847	63,302	68,992	72,881	34,612	36,108	36,534	33,536	34,486	21,756	26,812	23,065
受付件数	2,056	2,062	2,152	2,385	2,748	1,505	1,499	1,604	1,423	1,316	802	967	861

